

丹後産コシヒカリ

ブランド力向上へ田植え

京丹後市は、農薬や化学肥料を一切使用しない稲作に取り組む「トライアル農地」を市内に設け、十七日に田植えを行う。丹後産コシヒカリのブランド

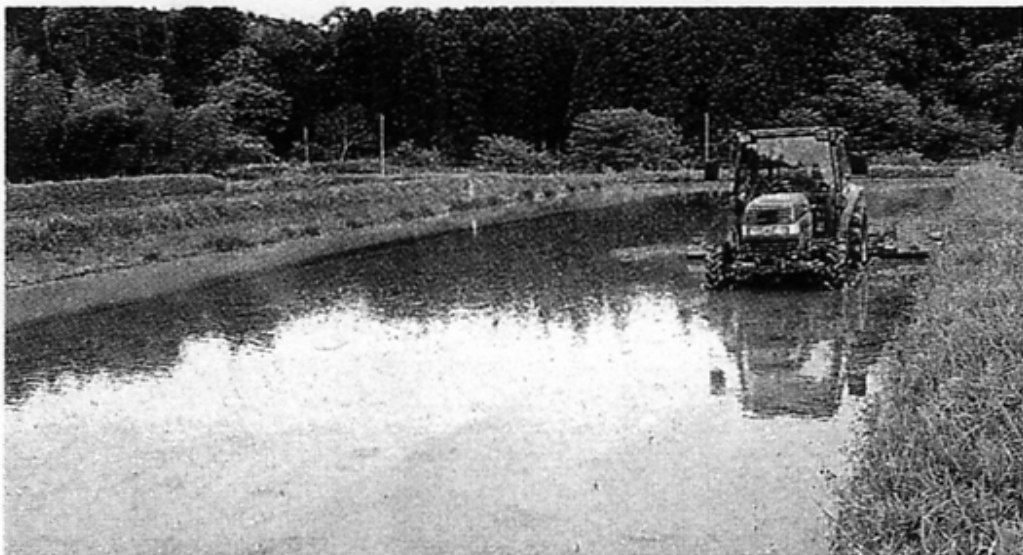
京丹後で17日

力向上を目指す試みで、発案者の京都吉兆嵐山本店総料理長・徳岡邦夫さん（48）も協力。土壌や食味の分析、販売戦略を実証研究し、産地全体の底上げにつなげる。

無農薬・無化学肥料

市内の水稻栽培面積は約二千五百畝あり、培技術の普及を目指し、丹後産コシヒカリは日す。徳岡さんも、田植本穀物検定協会（東京）えから全国PRまで幅の食味ランキングで、広く協力するという。最高評価「特A」を二年連続（二〇〇七、〇八年産）で獲得した。七百三十平方メートルで実米どころの強みをさらに伸ばそうと、市専門委員の徳岡さんが昨秋、トライアル農地の導入を提唱。無農薬・無化学肥料での米作りを通じ、おいしさや品質を上げ、関係機を通じて、おいしさや品質と連携し、さまざま

発案の徳岡さんPR協力



丹後産コシヒカリのブランド力向上を目指す、田植えが行われる「トライアル農地」
（京丹後市久美浜町女布）

なデータを生産者に還元していく。『特A』の向上にもつなげたの継続や生産者の所得
（堤冬樹）